

## プルチョウ先生の研究業績を顧みて

国際日本文化研究センター  
研究部・教授 笠谷和比古

### 【講演概要】

講演では、昨年6月に急逝されたヘルベルト・プルチョウ先生の研究の御業績を回顧する。先生は博学多識にして、諸方面の分野に学問的な関心を示され、数多くの業績を残された。先生は米コロンビア大学においてドナルド・キーン先生の下で日本研究に取り組み、その出発点は日本中世の紀行文学を主題とするものであった。その後、先生の関心は日本人の旅そのものに向けられ、文学研究から歴史学的研究へとシフトされていった。時代分野も中世から近世へと移り、江戸時代における日本人の旅行の歴史的意義を追究するものとなっていった。そしてその中から18世紀日本に生じていた文明史的な転換—ヨーロッパ史における啓蒙運動に比定—に着目し、その具体的な様相を解明することに傾注された。他方、先生にはもう一つ裏千家茶道の師範としての側面がある。この方面の研究は『茶道と天下統一—ニッポンの政治文化と「茶の湯」』として纏められている。講演では、これら諸方面にわたる先生の研究成果を検討し、その研究史的意義を跡づけていく。

### 【笠谷和比古 プロフィール】

笠谷 和比古 Kazuhiko KASAYA

#### [現 職]

(大学共同利用機関法人) 国際日本文化研究センター研究部・教授

(伝統文化芸術総合研究プロジェクト長)

専門、歴史学・武家社会論

#### [略 歴]

1949年8月、神戸市出身（昭和24年8月15日生）。

73年3月、京都大学文学部史学科卒業

78年3月、京都大学大学院文学研究科博士課程修了

89年4月、国際日本文化研究センター助教授

94年7月23日 学位、博士（文学、京都大学）

96年4月より現職。

この間、ドイツ；チュービンゲン大学客員教授（95年4月～7月）

ベルリン・フンボルト大学客員教授（96年4月～10月、2004年4月～6月、2008年4月～6月）

中国；北京外国語学院客員教授（95年10月～12月）

ベルギー；カトリック・ルーヴァン大学客員教授（97年4月～6月）

フランス；パリ大学東洋言語学院客員教授（99年4月～7月）

NHK人間講座「武士道の思想」の講師（2002年）。

またNHK「その時、歴史が動いた」にもゲストコメンテーターとしてたびたび出演（2005年8月、2006年11月、他）。

[著 書]

『新訂日暮硯』（岩波文庫 1988年）

『主君「押込」の構造』（平凡社選書 1988年。88年度サントリー学芸賞。  
講談社学術文庫 2006年）

『近世武家社会の政治構造』（吉川弘文館 1993年）

『関ヶ原合戦』（講談社選書メチエ 1994年。講談社学術文庫 2008年）

『徳川吉宗』（ちくま新書 筑摩書房 1995年）

『近世武家文書の研究』（法政大学出版会、1998年）

『江戸御留守居役』（吉川弘文館 2000年）

『関ヶ原合戦と近世の国制』（思文閣出版 2000年）

『武士道その名誉の掟』（教育出版 2001年）

『武士道と日本型能力主義』（新潮選書 2005年）

『関ヶ原合戦と大坂の陣』（吉川弘文館 2007年）

『公家と武家—官僚制と封建制の比較文明史的考察—』（編著。思文閣出版 2008年）

『伝統文化とグローバリゼーション』（NTT出版、2009年）

『一八世紀日本の文化状況と国際環境』（編著。思文閣出版 2011年）

『武家政治の源流と展開』（清文堂出版、2011年）、他

*The Origin and Development of Japanese-style Organization*, International Research Center for Japanese Studies, Kyoto, Japan. 2000

*Dodonaeus in Japan –Translation and the Scientific Mind in the Tokugawa Period–*(co-editor and author) Loeven, Belgium. 2002